



2020年 12月

株主通信 セコム株式会社

第60期中間報告書 [2020年4月1日から
2020年9月30日まで]



Top Message

多様化するニーズに
お応えするサービスで、
切れ目のない安心をお届けする

新型コロナウイルス感染症の拡大防止に寄与するサービスや、持続的成長に向けた投資への取り組み状況について、社長の尾関一郎からご説明いたします。

セコム株式会社 代表取締役社長 **尾関 一郎**



新型コロナウイルス感染症の 拡大防止に寄与するサービスについて

このたびの新型コロナウイルス感染症に罹患された皆様および関係者の皆様には心よりお見舞い申し上げます。

セコムでは、お客様と社員の安全確保を最優先に考え、全社を挙げて入社前の検温等による健康管理、マスク着用・手洗いの徹底、アルコール消毒液の設置・使用、時差出勤・テレワークの実施など、感染症の拡大防止に取り組んでいます。

コロナ禍において新しい生活様式が求められる中、セコムは、契約書類等の文書を電子化する「セコムあんしんエコ文書サービス」や社員の勤怠管理・安否確認ができる「セコム安否確認サービス」、従業員個人のパソコンで安全にテレワークができる「セコムあんしんテレワーク (USBリモート端末)」などを提供して企業におけるテレワーク環境構築の支援を行っています。

ご家庭向けのサービスでは、帰省の自粛により、「セコム・

ホームセキュリティ」の安否見守りサービスやシニア向けの救急時対応サービス「セコムみまもりホン」といった、離れて暮らす親御さんの見守りサービスへの需要が大きく高まっています。

持続的成長に向けた投資への 取り組み状況について

労働力人口が減少する中、持続的成長のためにセコムは社員一人ひとりの生産性・収益性の向上や人財の確保・育成を重要な経営課題と考え、システムや人への投資を積極的に展開しています。

具体的には、社内の基幹システムの刷新やサービス毎に独立していたシステムの統合を進めるほか、IT・グローバル人財の確保や教育・研修の強化を進めています。これらを実現することで、業務の効率化を図るとともに競争力を高め、より一層付加価値の高いサービスを提供していきます。

最後に、株主の皆様へ

新型コロナウイルス感染症による影響が長期化し、不確実性が増す中、企業が成長するためには絶え間なくさまざまな変化に迅速かつ柔軟に対応することが重要です。

セコムは「セコムグループ2030年ビジョン」に掲げる「あんしんプラットフォーム」構想の実現に向け、多様化する社会のニーズに先んじてお応えできるサービスを提供して切れ目のない安心をお届けしていきます。

今後とも私たちセコムグループにご期待・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

「サーマルカメラ (タブレットタイプ)」を発売 検温とマスク未着用の判定で感染症の拡大防止

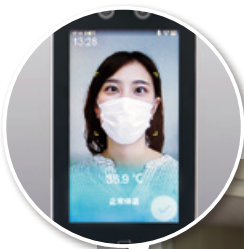
セコムは7月、施設の入口や受付に設置して来訪者の顔の表面温度の計測とマスクの未着用を判定できる「サーマルカメラ (タブレットタイプ)」を発売しました。

新型コロナウイルス感染症の拡大防止策として、オフィスや商業施設、学校など多くの人が集まる施設では来訪者への検温やマスク着用の促進が重要な取り組みの1つとされています。

本商品はAI技術で来訪者の顔を認識し、表面温度の計測結果が設定値を上回った場合やマスクを着用していないと判定した場合、画面表示と音声で知らせることにより発熱者やマスク未着用の方の入場を抑制することができるものです。

温度の計測とマスク未着用の判定は素早く高精度で、専用のスタンドとACアダプターを使用して、設置や移設を簡単に行うことができます。

新型コロナウイルス感染症の拡大防止にともない新しい生活様式が求められる中、今後もセコムは社会のニーズにいち早くお応えできる「安全・安心」なサービス・商品を提供していきます。



検温とマスク未着用の判定ができる「サーマルカメラ (タブレットタイプ)」



「バーチャル警備システム」による 発熱者対応の実証実験を実施

セコムは6月、東京・原宿のセコム本社で、実用化に向けて開発を進めている「バーチャル警備システム」を使い、来訪者への体温チェックやマスクの着用をお願いする実証実験を行いました。

「バーチャル警備システム」は、常駐警備員が提供している業務のうち、警戒監視、受付などを、現実空間を映しこむディスプレイ一体型ミラー上に3Dモデルとして表示した「バーチャル警備員」が提供し、対処、緊急対応など熟練した常駐警備員ならではの能力と組み合わせる新たな警備のあり方を実現するものです。

不特定多数が訪問するオフィスの感染症対策を想定し、本実証実験では「バーチャル警備システム」の新たな応用として、「バーチャル警備員」と熱画像カメラを連携させた来訪者の体温チェックと誘導、マスク未着用者への着用の依頼を実施。発熱者の入場を規制することによる感染症の拡大防止のほか、常駐警備員が直接体温チェックを行う場合に比べて来訪者・警備員双方の感染リスクを低減することができました。

また、「バーチャル警備員」の通信には5Gを活用。有



「バーチャル警備員」が体温チェックやマスクの着用を依頼

線ネットワークを敷設することなく、高速大容量、低遅延な無線通信により「バーチャル警備システム」を運用できることを実証しました。

今回の成果を活かし、2021年の実用化に向けて開発を進めていきます。

「歩行領域EV(警備実証用モデル)」の活用を検証 警備業務の効率化と警備員の負担軽減を目指す

セコムは8月、沖縄県にあるセコム琉球(株)のご契約先であるサンエー浦添西海岸パルコシティで、トヨタ自動車(株)が開発中の「歩行領域EV*(警備実証用モデル)」の活用を検証していることを発表しました。



活用に向けて検証が進められる
「歩行領域EV (警備実証用モデル)」

「歩行領域EV」は、電気自動車の技術を活用して、人間が通常歩行するエリアを走行できる最新のモビリティです。

1月より行っている検証では、通常、警備員が歩いて行う夜間の巡回警備に「歩行領域EV (警備実証用モデル)」を活用することで、巡回警備の時間を約3割短縮できるとともに、警備員の体力的な負担軽減についても有効であることが確認できました。

また、「歩行領域EV (警備実証用モデル)」には、混雑時などの利用を想定した拡声器や救急時の備えとしてAED (自動体外式除細動器) が搭載できるほか、警備員がウェアラブルカメラなどを併用することで、より質の高いサービスを提供することも可能です。

今後もセコムは「歩行領域EV (警備実証用モデル)」を活用した新しい警備の検証を重ね、高品質かつ効率的なセキュリティの提供を目指すとともに、警備員の負担軽減にも取り組んでいきます。

※EV: Electric Vehicle (電気自動車)

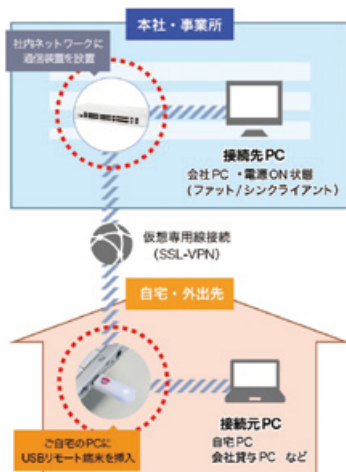
従業員個人のパソコンを使った安全なテレワークを支援する「セコムあんしんテレワーク (USBリモート端末)」を発売

セコムグループでBPO・ICT事業を担うセコムトラストシステムズ(株)は8月、企業のテレワークを支援する「セコムあんしんテレワーク (USBリモート端末)」を発売しました。

本サービスでは、導入企業の本社や事業所にリモート接続用のVPNゲートウェイ環境を構築した後、従業員個人所有のパソコンにUSBリモート端末を挿して起動すると社内システムに繋がり、会社と同じ環境でテレワークを実施することができます。個人のパソコンを使用するので、新たにテレワーク用のパソコンを用意するよりコストを大幅に抑えることが可能です。

USBリモート端末には電子証明書がインストールされている上、インターネット通信には仮想専用線接続(SSL-VPN)を用いてセキュリティを確保。USBリモート端末や個人のパソコンにはデータを残さないシンククライアント方式なので、紛失・盗難・破損のリスクを軽減することができます。

本サービスを通じて安全なテレワーク環境の構築を支援し、感染症予防や生産性の向上に寄与していきます。



個人のパソコンを使い会社と同じ環境でテレワークができる「セコムあんしんテレワーク (USBリモート端末)」

「基幹システムの刷新」などの取り組みが評価され 経済産業省・東京証券取引所の「DX銘柄2020」に選定

セコムは8月、経済産業省と東京証券取引所が共同で選定する「DX銘柄2020」に選ばれました。

「DX銘柄」は、東京証券取引所の上場会社の中から、デジタルトランスフォーメーション*(DX)

を積極的に推進する企業を選定・公表するものです。2015年から5回にわたり経営革新、収益水準・生産性の向上をもたらすIT利活用に取り組む先進企業が「攻めのIT経営銘柄」として選定されてきました。今年からはDXに焦点を当てるとともに名称も変えて実施され、セコムは「攻めのIT経営銘柄」に選ばれた2016年・2017年を含めて3回目の選出となりました。

今回の選定では、サービス毎に独立しているシステムを統合することでグループで一貫した包括的なサービスの提供を目指す「基幹システムの刷新」や、AIを活用した等身大バーチャルキャラクターが警備・受付業務を提供する「バーチャル警備システム」の開発などの取り組みが評価されました。

今後も、DXを推進するセコムならではの革新的なサービスの開発・提供を通じ、「安全・安心・快適・便利」な社会の実現を目指していきます。

*デジタルトランスフォーメーション：企業がデジタル技術を活用してビジネス環境の変化に対応し、ビジネスモデルを変革させて成長する仕組みをつくること。



DX銘柄2020
Digital Transformation

デジタルを活用した取り組みが
評価された「DX銘柄2020」

環境・社会・ガバナンスへの継続した取り組みに高評価 GPIFが採用する4つのESG投資指数すべてに選定

セコムは6月、GPIF（年金積立金管理運用独立行政法人）が日本企業へのESG（環境・社会・ガバナンス）投資にあたり採用している4つの指数すべての構成銘柄に選定されました。

GPIFが採用する4つのESG指数

- ① FTSE Blossom Japan Index
- ② MSCI ジャパン ESG セレクト・リーダーズ指数
- ③ MSCI 日本株女性活躍指数 (WIN)
- ④ S&P/JPX カーボンエフィシエント指数

これらの選定は、温室効果ガス排出量削減をはじめとする環境課題への対応、女性の活躍推進、「安全・安心」のノウハウを活かした地域コミュニティ活動、ガバナンスの強化、情報開示の拡充などへの継続した取り組みと成果が高く評価されたことによるものです。

なお、セコムは国内外の投資家向けに従来よりリアルタイムレポートを発行してきましたが、今年から「セコムレポート」に改称し、企業価値向上に向けた戦略や、非財務情報などの内容を一層拡充させています。ウェブサイトにも公開していますのでぜひご覧ください。

セコムはこれからもさまざまな社会課題の解決に貢献し、社会とともに持続的な成長を目指していきます。

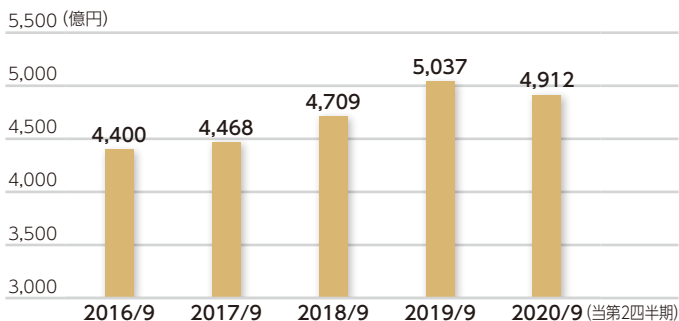


IR情報を拡充させた
「セコムレポート2020」

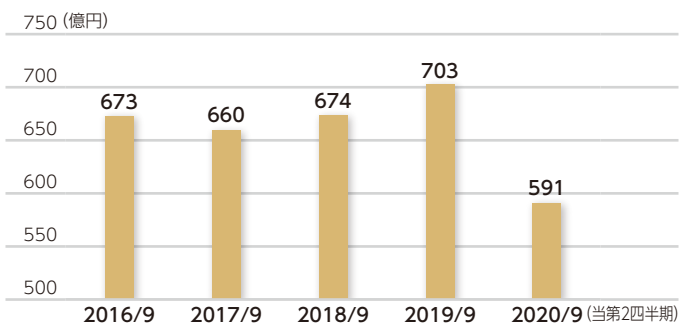
Review

連結決算 業績ハイライト

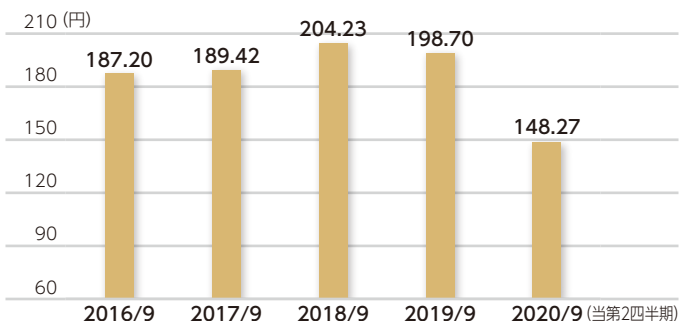
● 売上高



● 経常利益

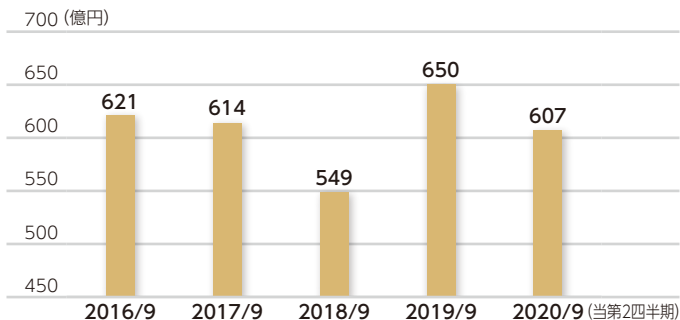


● 1株当たり四半期純利益

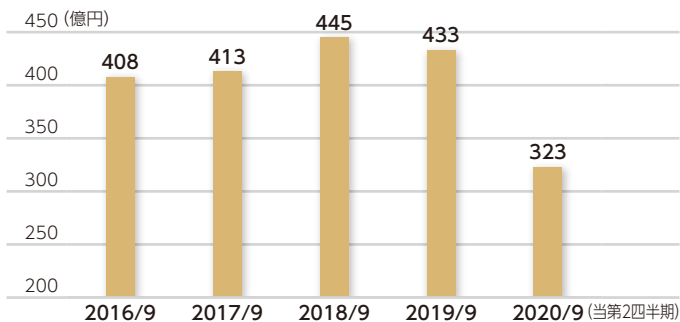


— 第2四半期累計

● 営業利益



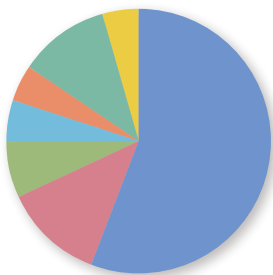
● 親会社株主に帰属する四半期純利益



● 事業別売上高内訳 2020/9 (当第2四半期)

(億円)

● セキュリティサービス事業	2,745	55.9%
● 防災事業	598	12.2%
● メディカルサービス事業	350	7.1%
● 保険事業	238	4.8%
● 地理空間情報サービス事業	228	4.7%
● BPO・ICT事業	541	11.0%
● 不動産・その他の事業	208	4.3%



Review

● 営業の概況（連結）

当第2四半期連結累計期間の日本経済は、新型コロナウイルス感染症の影響により、企業収益が大幅に減少し、依然として厳しい状況が続きましたが、個人消費など一部で持ち直しの動きも見られました。また、社会経済活動の再開が段階的に進められる中で、国内外の感染症の動向や金融資本市場の変動などの影響に引き続き留意が必要な状況が続きました。

コロナ禍において、事業所や店舗などといった多くの人が集まる施設で、入場者の検温やマスクの着用など感染拡大防止の取り組みを行うことが日常となってきたことを踏まえ、2020年7月には、マスク着用時でも顔の表面温度を計測可能なタブレット端末一体型のサーマルカメラを販売開始しました。さらに8月には、テレワークへのニーズに対応するサービスとして、従業員個人のパソコンにリモート端末機能を備えたUSBメモリーを差し込むことで、安全に社内システムへ接続することができ、また、個人パソコンには一切データを残さないことで、紛失・盗難・破損のリスクを軽減できる「セコムあんしんテレワーク（USBリモート端末）」の提供を開始しました。

このような「新たな日常」に対応するサービスに加え、当社グループは、「安全・安心・快適・便利」な社会を実現する「社会システム産業」の構築を目指す中で策定した「セコムグループ2030年ビジョン」、また、その実現に向けて今何をすべきかを明確化した「セコムグループロードマップ2022」への取り組みを積極的に展開しています。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間における売上高は4,912億円（前年同期比2.5%減少）、営業利益は607億円（前年同期比6.7%減少）、経常利益は591億円（前年同期比15.8%減少）、親会社株主に帰属する四半期純利益は323億円（前年同期比25.4%減少）となりました。

Profile

● 会社概要



セコム株式会社

設立 …… 1962年7月7日

所在地 …… 〒150-0001

東京都渋谷区神宮前1-5-1

資本金 …… 664億円

- グループ総会社数 (セコム(株)含む) …… 183社
連結子会社数 …… 166社
持分法適用関連会社数 …… 16社
- グループ総社員数 …… 64,143名
(2020年3月31日現在)

取締役 (2020年11月30日現在)

取締役 (最高顧問)	飯田 亮
代表取締役会長	中山泰男
代表取締役社長	尾関一郎
専務取締役	吉田保幸
常務取締役	布施達朗
取締役	泉田達也
取締役	栗原達司
取締役 (社外)	廣瀬篁治*
取締役 (社外)	河野博文*
取締役 (社外)	渡邊 元*
取締役 (社外)	原 美里*

監査役 (2020年11月30日現在)

監査役 (常勤)	伊東孝之
監査役 (常勤)	加藤幸司
監査役 (社外)	加藤秀樹*
監査役 (社外)	安田 信*
監査役 (社外)	田中節夫*

*印の7名を独立役員として東京証券取引所に届け出ております。

執行体制 (2020年11月30日現在)

● 取締役

代表取締役会長	中山泰男
代表取締役社長	尾関一郎
専務取締役	吉田保幸
常務取締役	布施達朗
取締役	泉田達也
取締役	栗原達司

● 執行役員

常務執行役員	古川顕一
常務執行役員	竹田正弘
常務執行役員	水野都飽
常務執行役員	石村昇吉
常務執行役員	新井啓太郎
常務執行役員	上田 理
常務執行役員	山中善紀

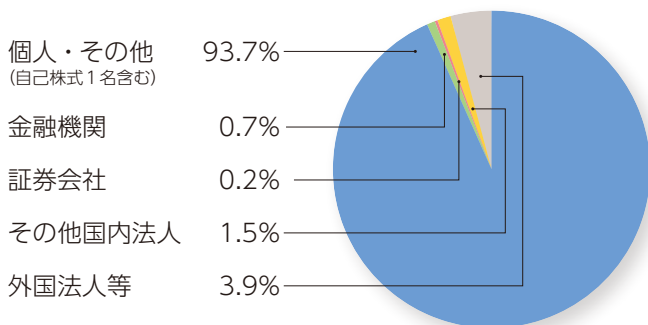
執行役員	杉本陽一
執行役員	福満純幸
執行役員	進藤健輔
執行役員	桑原靖文
執行役員	福岡規行
執行役員	赤木 猛
執行役員	佐藤貞宏
執行役員	長尾誠也
執行役員	植松則行
執行役員	永井 修
執行役員	小松 淳
執行役員	御供和弘
執行役員	千田岳彦
執行役員	中田貴士
執行役員	森田通義
執行役員	稲葉 誠
執行役員	杉本敏範
執行役員	荒木 総

Information

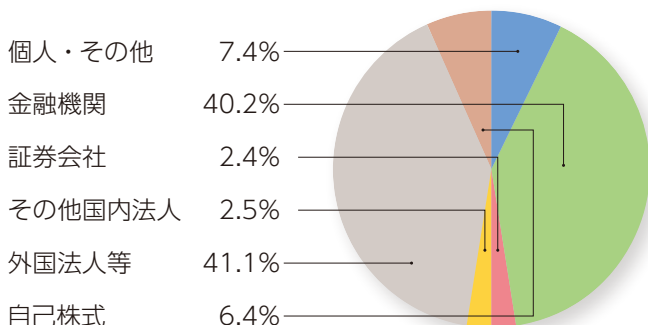
● 株式の状況 (2020年9月30日現在)

1. 発行可能株式総数 …………… 900,000,000株
2. 発行済株式の総数 …………… 233,295,926株
3. 単元株式数 …………… 100株
4. 株主数 …………… 21,878名
5. 所有者別状況

● 株主数比率



● 株式数比率



● 株主メモ

- 事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
- 定時株主総会 毎年6月
- 基準日 定時株主総会 毎年3月31日
期末配当 毎年3月31日
中間配当 毎年9月30日
- 株主優待制度 毎年3月31日現在における当社株式
100株以上保有の株主様に、当社グループで利用可能な優待券を贈呈。
- 上場証券取引所 東京証券取引所
- 証券コード 9735
- 公告方法 電子公告
<https://www.secom.co.jp/koukoku/>
ただし、事故その他やむを得ない事由によって
電子公告による公告をすることができない場合
には、日本経済新聞に掲載して行います。
- 株主名簿管理人
特別口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社


● 株式に関する各種お手続きについて

- 証券会社に口座がある
株主様は… ▶ 口座がある証券会社へ
お問い合わせください。
- 特別口座に
記録されている株式の
株主様は… ▶ 下記の特別口座管理機関
三菱UFJ信託銀行(株)へ
お問い合わせください。
- 未払い配当金の
お支払いに関する
お問い合わせは… ▶ 下記の株主名簿管理人
三菱UFJ信託銀行(株)で承ります。

株主名簿管理人・特別口座管理機関

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

郵送先
〒137-8081
新東京郵便局私書箱第29号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

株式のお手続きに関する
お問い合わせ
 **0120-232-711**
[平日9:00~17:00]

「サステナビリティレポート2020」を公開



セコムは10月、社会のサステナビリティ（持続可能性）の実現に向けた取り組みを紹介する「サステナビリティレポート2020」をウェブサイト上に公開しました。

セコムは創業時から「社会に有益な事業を行う」という基本理念を掲げており、多様なニーズに対応するサービスを提供して広く「安全・安心」をお届けすることで、社会のサステナビリティにも貢献できると考えています。

本レポートでは、トップメッセージ、サステナビリティの重要課題、ESG 課題への取り組みを紹介しているほか、ESGに関する詳細なデータも開示しています。

事業を通じて社会のサステナビリティに貢献するセコムの取り組みをぜひご覧ください。

▶ www.secom.co.jp/corporate/csr/

〈表紙写真のご説明〉活用を検証中の「歩行領域EV（警備実証用モデル）」（上）と、「バーチャル警備システム」による発熱者対応の実証実験（中）と、個人のパソコンで安全なテレワークができる「セコムあんしんテレワーク（USBリモート端末）」（下）



本誌は環境に配慮し、FSC® 認証紙および植物性インキを使用しています。



ユニバーサルデザイン（UD）の考えに基づき、より多くの人へ適切に情報を伝えられるよう配慮した見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。